

事業名		代表者所属	広島干潟生物研究会
16 KJ-027		代表者	事務局長 くやみつお
広島ジュニアサイエンスフェア		開催地	広島市
		助成金額	13万円
活動概要			
<p>日時 2017年1月7日</p> <p>場所 広島市青少年センター</p> <p>対象 青少年・一般</p> <p>参加者(人) 約 406名</p> <p>内訳 (成人 215、大学生 5、高校生 21、中学生 55、小学生 98、幼児 12) 教員数 不明</p> <p>内容 口頭発表、ポスターセッション、トークショー、サイエンスショー、実験/体験ブース、科学写真展、科学研究相談</p> <p>講演:0、発表:口頭8件/ポスター43件、シンポジウム:1件(トークショー)</p>			

#### 事業の目的・ねらい

当会のジュニア会員による研究発表(口頭発表、ポスター発表)、サイエンスショー、トークショー、実験・体験コーナー、またシニア会員・ジュニア会員による科学写真展や実演などを通じて、参加者に楽しみながら科学的素養を培い、科学技術や科学研究の振興に役立てるとともに、青少年の健全育成に資する。

#### 事業の概要

##### 【具体的な内容】

- 内容 科学研究口頭発表…小学生4本、中学生4本  
科学研究ポスター発表…展示枚数43枚(すべてA1判カラー)  
トークショー…女子大生3名、進行1名  
サイエンスショー…高校生7名  
実験・体験コーナー…10ブース  
写真展「水・光・瞬間の不思議展」写真99点、実演  
科学研究相談コーナー…担当2名(医師・理学博士)  
科学研究材料の無料配布…微生物、植物の苗など
- 開催日時 平成19年1月7日(土) 11:00～16:30
- 開催場所 広島市青少年センター(広島市中区基町5-61)

#### 成果・効果

##### 【参加者への効果】

- ・参加者は科学技術の一端に触れることができ、科学技術の振興に役立った。
- ・参加者は一様に参加したことに満足していた。
- ・保護者も子どもも、科学研究の重要性を認識し、実際に取り組んでみることの重要性に気づいた。
- ・保護者は子どもの潜在能力を発見した。
- ・口頭発表者、ポスター発表者は達成感を味わい、次年度への意欲が向上した。特に、ポスターセッションにおいて、聴衆ともども、科学技術や探究活動の重要性、おもしろさを共感していた。
- ・ブース展示者は、参加者の反応に手応えを十分に感じ、特にジュニア展示者は次年度への継続意欲を高めた。
- ・ショー出演者も達成感を味わい、客席の反応を十分に受け止めることができ、達成感を味わった。

##### 【地域への効果】

- ・科学や技術の応用が身近な場面で見られたことと、科学研究相談に予想以上の来客があったこと、研究材料の配布などにより、広島市の科学研究のすそ野を広げた。
- ・保護者は、科学研究や体験活動の教育効果について認識し、受験技術一筋では将来必要とされる力が育ちにくいことを認識した。

##### 【その他の効果】

- ・企業や団体が協力的であり、ボランティアでブース参加いただいた。この輪を広げることで、より多くの実験や体験が可能となるだろう。

# 第1回広島ジュニアサイエンスフェア

2019/01/07

## スナップ1



研究口頭発表



研究口頭発表



理系女子大生トークショー



ポスターセッション



高校生のサイエンスショー



ポスターセッション



ラボオルカ中学生体験コーナー運営



部屋の表示



実験・体験の部屋



実験・体験の部屋



# 第1回広島ジュニアサイエンスフェア

## スナップ2





(23) 地域

2016年(平成28年)12月27日(火曜日)

中

広島

第1版

# 広島都市圏

## 事前報道

2016/12/27付け  
中国新聞朝刊

実験ショーの練習に励む生徒



### 実験のおもしろさ知って 来月 研究発表や実験ショー

広島市などの児童生徒が科学研究を発表し、実験のおもしろさを伝える「広島ジュニアサイエンスフェア」が来年1月7日、中区の市青少年センターである。市民でつくる実行委員会が初めて企画した。

午後1時15分から、小中学生の8組が化石分析やソウリムシの行動研究、独自に考えた音速測定法などの研究成果を発表する。午後3時から、中高生時代に市内の干涉にすむ方への生理学研究に投稿し、現在は北海道大、大阪大、京都大で学ぶ女子学生3人が学びの楽しさを語るトークショーがある。午後3時45分からノートルダム清心高(西区)の1年生7人が液体窒素などを使った実験ショーを披露。桑井ひかりさん(16)は「わくわくする気持ちで科学に興味を持ってもらいたい」と話す。会場では小中学生の研究成果を紹介するポスター37枚の掲示や高性能顕微鏡の体験コーナーもある。午前11時開場。資料代300円。申し込みが必要。実行委082(274)4100。11月30日、1月3日は休み。(久保友美恵)

## 第1回広島ジュニアサイエンスフェアの報道

2017年1月8日中国新聞朝刊

(23) 地域

2017年(平成29年)1月8日(日曜日)

中

広島

第1版

# 広島都市圏

報道部  
☎082(236)2323 FAX(236)2321  
電子メール  
houdou@chugoku-np.co.jp  
安佐北支局  
☎082(812)0018 FAX(819)0068  
西広島支局  
☎0829(31)0317 FAX(20)1035  
大竹支局  
☎0827(52)2925 FAX(54)0020  
安芸海田ステーション  
☎082(822)0301 FAX(821)2636  
北広島支局  
☎0826(72)2171 FAX(72)7021

サイエンスフェアで科学研究の成果を発表する児童



### 科学研究 小中生ら成果 中區でフェア ステージ発表や展示

広島市や近隣の児童生徒が自ら取り組んだ科学研究の成果を披露する「広島ジュニアサイエンスフェア」が7日、中区の市青少年センターであった。ステージ発表やポスター展示を通して、学ぶ楽しさを伝えた。ステージ発表は、科学コンクールで受賞するなどの個人・グループ計8組が参加した。安田小2年西原匡佑君(8)は自分で収集したアンモナイトの化石の分類を紹介、「いくつか新種の恐竜を見つけて自分の名前を付けたい」と夢を語った。ノートルダム清心高2年の三宅真奈華さん(14)と三浦美津さん(13)は、太田川下流域のスナガニなどの生態分布を解説。終了後、「みんなに知ってほしいので、いい機会だった。また新しい研究を発表したい」と語っていた。このほか、水に塩や砂を混ぜた場合の沸点の上昇や沸騰の速さの検証、ヒメタカなど魚類の縄張り行動に関する観察結果などの発表もあった。ポスター展示は約30組が出展した。フェアは発表を通じて研究意欲を高めてもらおうと、市民でつくる実行委員会が初めて企画した。(畑山高志)